

更生

見附市保護司会（見附市保健福祉センター内 更生保護サポートセンターみつ 携帯電話 070-4282-8110）



見附まつり鼓笛パレード

安全で安心して暮らせる
社会を目指して



見附警察署
加藤 保 栄

見附市保護司会の皆様におかれましては、日頃より、犯罪や非行をした人の社会復帰に向けた指導や援助を行う保護観察のほか、「社会を明るくする運動」等を通じての犯罪や非行の予防活動にご尽力いただいておりますことに敬意を表します。

さて、昨今の治安情勢ですが、全国的にはSNSを利用し強盗や詐欺等の犯罪の実行犯を募集する匿名流動型犯罪が全国で発生しているほか、インターネットを利用した不正アクセスによる犯罪により、中・高校生が逮捕される事件が発生しており、これからの情勢は予断を許しません。

見附警察署管内におきましても、昨年同期と比較して刑法犯認知件数は減少しているものの、特殊詐欺と思われる不審電話の相談が数多く寄せられております。電話やメール等で身に覚えのない代金請求や高配当を約束する投資案件につきましては詐欺を疑い、家族の方や警察に相談をお願いします。

また、最近の不審電話は国際電話からの発信が多くなっています。海外居住の親族がおられない方等で国際電話を日常的に利用していない場合は取扱い停止手続の検討をお願いします。

新潟県警察におきましては「県民が安心して暮らせる安全な新潟の実現」を指針に掲げ、効果的な犯罪防止に向けた取組の推進や安心感を高める街頭活動の強化等を目標として活動しております。

見附警察署においても、各世帯を訪問しての防犯広報やパトカーでの警戒活動を通じて犯罪検挙活動を強力に推進してまいります。

しかしながら、犯罪被害や非行を未然に防止するためには皆様方の御協力が必要不可欠であります。今後とも警察業務に対して一層の御理解と御協力をいただきながら安全で安心な社会の実現を目指した活動に取り組んでまいります。

議員の立場から見た更生保護について



見附市議会議長 渡辺 美 絵

日頃より見附市保護司会の皆様におかれましては犯罪や非行をした人の立ち直りのため、保護観察・生活環境の調整・犯罪予防活動など多岐にわたる重要な職務にご尽力いただき、その活動と熱い思いに敬意を表したいと思います。今年は見附市議会の女性議員6名と見附市保護司会の皆様との意見交換会を実施しました。保護司会の皆様の、より具体的な活動内容・どんな時にやりがいを感じるか・ご苦労や課題などを伺うことができました。

意見交換会を通じて、私たち市議会議員の活動と共通点が多くあることもわかりました。我々市議会議員の仕事は、市長提案の議案を議決するため日々調査研究する仕事だけでなく、市民の方々からの相談を受けることも多くあります。相談内容は様々です。例えば道路の問題など担当課につなぐような内容から、教育問題、また社会との接点がなく、孤立を深めておられるかたの相談まで幅広いのが現状です。市と市民のかたの間に入り、必要な支援につなげたり、話し相手になることも多いのです。市議会議員だからといって解決できないことも多く無力感を感じることもあります。が、「寄り添う」という点においては保護司の皆様と共通の部分であると感じています。また、自分たちの活動が回り回って社会をよくすることにつながっているのだと信じ、責任とやりがいをもって仕事に取り組んでいます。保護司の皆さまの立場・議員の立場、それぞれ役割が異なる部分もありますが、今後も「一人では生きていけない」という原点を忘れずに、地域全体のつながりや交流をキーワードに連携できることはしていきたいと思えます。保護司の皆様には今後もあたたかい保護活動へのご尽力をお願いするとともに、皆さまのご健勝と一層のご活躍を心から祈り申し上げます。

第75回“社会を明るくする運動”

～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～

“社会を明るくする運動”は、すべての国民の皆様が、犯罪・非行の防止と立ち直りの支援についての理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、明るい地域社会を築くための全国的な運動です。昭和26年に始まって以来、多くの方々の御賛同・御協力を得て、今年で75回目を迎えました。

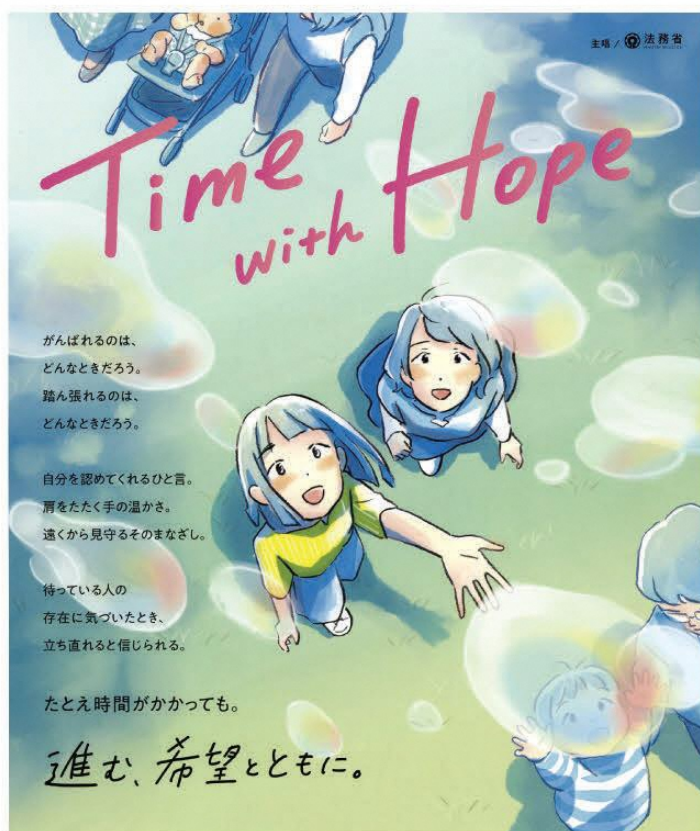
犯罪や非行の背景には、望まない孤独や社会の中での“生きづらさ”が存在していることが少なくありません。また、過去の過ちから立ち直ろうとする人々には、十分な時間と地域の中での居場所が必要です。悩める方々に寄り添い、互いに相手を受け容れることが、安全で安心な明るい社会の実現につながります。

こうした観点から、私たちが暮らす地域では、保護司や協力雇用主を始めとする「更生保護ボランティア」の皆様が、社会復帰を目指す人々を身近で支え、その再出発を助けています。政府においても、再犯防止のための就労支援、保護司等との連携強化、町ぐるみの防犯活動の促進などに取り組んでいます。

この運動を通じて、より多くの国民の皆様に、立ち直り支援の活動を知っていただき、協力の輪が広がっていくことを期待いたします。併せて、「人は変えられる」と信じ、それを待つことの大切さについても、御理解をいただければ幸いです。「幸福の黄色い羽根」のもと、多様な背景を持つ人々が、理解し合い、支え合うことによって、犯罪や非行のない明るい地域社会が実現するよう取り組んでまいりますので、国民の皆様のお協力をお願い申し上げます。

内閣総理大臣

石破 茂



犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ

第75回 社会を明るくする運動

「社会を明るくする運動」は、犯罪や非行から立ち直ろうとする人々を支え、新たな希望をもつ人々を育てる「安全・安心な地域社会を創出す国民運動」です。

社 団 しゃめい

Q 検索



第 75 回 社会を明るくする運動

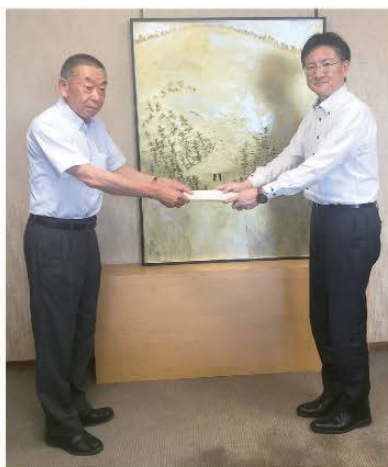
第75回「社会を明るくする運動」（以下、「社明運動」と表記）は、年間を通して全国的な運動として各地で展開されています。特に、7月を「社明運動強調月間」とするとともに、再犯防止等の推進に関する法律の施行により、同月を「再犯防止啓発月間」として、運動の強化を図っています。

今年度も、見附市では次の活動に取り組みました。

1. 6月25日に内閣総理大臣からのメッセージを保護司会会長より見附市長に伝達しました。
2. ネーブルみつけに懸垂幕を掲揚、市内各所の目に付く箇所に立て看板を設置及びポスターを掲示しました。
3. 7月1日に広報車により市内を巡回し、社明運動のPR（協力事業主会・BBS会とともに）原信見附店様・プラント5見附店様でパンフレットの配布を行いました。
4. 7月1日に市内全ての小中学校を訪問し作文コンテストの案内をしました。

この度、保護司活動の周知、定員割れの保護司の増員を図るために、アンケート調査を実施してみました。市会議員の方7名。市内中高生50名。保護司・保護司OB20名、一般の方10名程にお願いしています。結果については、次号の更生で報告させて頂きます。皆様方には、保護司の活動をよく知って頂き、興味を持ってもらえたらと考えています。

（宇津）





新任の挨拶



家坂 栄吉

この度、私は友人の誘いを受け、保護司を受けることになりました。

私自身まだまだ未熟で、社会のことをもっと勉強していかなくてはならないと思っておりますが、これまでの人生で経験したこと（良かったこと、失敗したこと）を生かして、更生を必要としている人と本心で向き合い、少しでも手助けが出来ればと思っております。

犯罪者であれ、非行者であれ、生まれた時はみな同じ境遇であったはず、しかし何らかの理由で人として道を踏み外してしまったというのが現実ではないでしょうか。

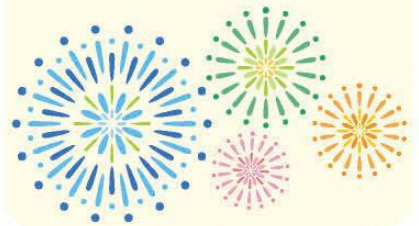
私はその何らかの理由に、少しでも理解を深め更生を必要とする当事者と本心で向き合いたいと考えています。

どこまで手助けできるかは未知ですが、精一杯やっつけていこうと考えていますので、宜しくお願いいたします。

社会を 明るくする運動

令和七年度

「愛の協力運動」 について



愛の協力運動は、市民の皆様には保護観察協会の会員になっていただき、ご理解とご協力により会費という形で貴重な浄財を拠出していただき活動をしております。本年度も、皆様より沢山の浄財をいただきました。ご協力ありがとうございました。

この会費（浄財）は、「社会を明るくする運動」をはじめとした犯罪予防活動・犯罪、非行のない地域づくり・広報誌発行・新潟県保護司会・更生保護施設・民間ボランティア団体等への助成として配分され、有効に活用させていただきます。

見附市保護司会では、七月一日には「社会を明るくする運動」市内広報活動、学校訪問（小学校・中学校）を実施いたしました。

今後の事業として、更生保護事業・市内の中学校を訪問して犯罪予防、少年非行防止活動などに取り組む予定です。

市民の皆様にも、犯罪・非行のない明るい社会、立ち直り支援のために今後もより一層のご支援とご協力をお願いいたします。

【星】

集 編 後 記

夏祭りは、日本の伝統行事の一つです。もともとは疫病退散や五穀豊穡を願う神事が起源です。暑さの中で人が集まり、神輿を担ぎ、浴衣を着て踊る風景には、自然と共に生きてきた日本人の知恵が詰まっています。近年では、地域コミュニティの希薄化が課題とされていますが、祭りは世代を越えて人と人をつなぐ力を持っています。今年は地元の祭りに足を運んで、伝統と人情のあたたかさに触れてみてはいかがでしょうか。小さな参加が、大きな地域の支えにつながるかもしれません。（窪）

